

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177500147		
法人名	有限会社 やすらぎ		
事業所名	グループホーム コスモス		
所在地	滝川市屯田町西1丁目2番8号		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	平成24年5月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護理念を全職員が理解し、利用者様個々の個性や認知症の状態及び種類を把握し、個別支援を行っております。利用者様がいつも笑顔で生活出来るよう、利用者様、ご家族様、職員が信頼関係を構築し共生を目指して何事にも柔軟に取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 24 年 3 月 12 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表者は、常に利用者及び家族の置かれている状況を把握しながら、笑顔が生まれるホームの創造のため、職員と共に試行錯誤を繰り返しながら、日常のケアに心を砕いています。「人を人として、その人らしく」の理念は、職員にも浸透し、日々のケアの隅々まで行き届いています。長年続いてきた利用料も、今回、全家族の理解を頂いて月額24,000円にするなど、家族負担を出来るだけ低廉に配慮しながら、健全なホームの運営に努めています。また、利用料など毎月の支払いをホームに持参して頂き、家族の訪問を通した利用者との繋がりに配慮しています。職員を育てる取り組みには特に力を入れており、OJT(職場内訓練)では、職員へのアンケートにより、研修内容の方向性を探りながら、個々のスキルアップの手助けをしています。開設以来の職員が後輩を育てる原動力にもなっており、「このホームでは、良い仲間作りが、良いケアを生んでいるのです」の一言が深い印象として残りました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検しううえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人を人として人らしく」をモットーに、また、地域の方たちとのつながりを大切に全職員が共有し実施しております。	利用者に対して「人を人として人らしく」の理念は、管理者並びに職員全員が、日々の業務の上で、厳しく自覚し、なおも追求し、実践する様子はあまり類を見ません。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会作業や施設の行事に町内会から参加して頂いたりして地域の一員として社会活動を実施しております。	町内会の理解を頂きながら、地域の一員としての清掃作業や行事に参加しています。ホームの企画する行事にも、たくさんの住民参加で賑わっています。この冬には、ホームの広場に大きな雪山で「ちびっ子滑り台」をオープンさせ賑わいました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の活動や施設行事にお互い参加し合い、ご理解とご協力をしながら認知症の人々の支援を行っております。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催しております。現在の状況等を話し合い意見交換を行った上で親睦を深めております。	昨年からの課題であったメンバーの増員について、家族及び町内会婦人部長を加えるなど、充足がみられます。会議では報告や行事の検討など、議事録に見られますが、結果のみの記載となっています。また、会議の内容を家族に周知が不足しています。	会議では結果へのプロセスが大切であり、議事録には、もう少し詳しい記載が望まれます。また、ホーム運営に関して家族の関心を得、また、啓発するため、議事録の全家族への配布が望ましく、その取り組みに期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から、良い事も悪い事も含めて市役所に報告し意見交換しております。密に連絡を取り合う事により、利用者様のサービス向上に努めております。	法人代表は、かねてよりキャラバンメートとしての活動を牽引しており、市の担当者とは、多方面での連携を図っています。この度は懸案の「SOSネットワーク」を立ち上げるなど、地域にあって利用者の安全を守るため、連携に努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会や高齢者虐待防止委員会等を設置し、ケアの実践に役立てております。また、研修会の参加をスタッフに呼びかけ勉強をしております。	代表者及び職員は、身体拘束のないケアを常に研鑽しながら、日々のサービスに活かすよう努めています。1～2階の行き来や玄関も開放されているなど、見守りによる利用者の安全を守り、束縛のない暮らしが継続されています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、事業所全体で虐待の防止に努めております。また、市内外の虐待防止研修会にも積極的に参加し虐待防止に努めております。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフに参加を呼び掛け、市内外の研修会に参加し勉強をして活用する機会があれば活用し支援しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様と数回面談の機会をもち十分な説明と理解を求めた上で納得して頂き契約をしております。また、契約だけではなく多方面に繋げて説明し理解と納得を得ております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に話し合う機会を常に設けて意見を聞き運営に反映させて頂いております。	家族は利用料の支払いなどのため、毎月1度は訪問しており、その機会を捉えて、担当職員と家族との懇談、また、近況報告など、細やかに言いながら、家族の意見を伺うようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	時間にとらわれずに意見を聞き、反映させております。また、ケアカンファレンスの時間帯を利用し、職員の意見を聞く事も実施しております。	代表者は、率先して職場内での風通しのよい関係作りに努めており、気楽に意見交換が飛び交う職場を垣間見ることが出来ます。職員は利用者との暮らしを支える中で、些細な出来事も職員全員で、共有できる雰囲気にはなっています。食事内容も改善のため提案し、検討が行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し、働きやすい環境作りを常に行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市内外の研修会に参加機会を設けたり、施設内でも勉強会を実施し職員個々の能力向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の行事に参加し交流を深めたり、職員研修旅行を活用し他施設の見学に行き学ぶ機会を設けサービス向上に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受容と傾聴を常に心がけ「なじみの関係」作りを行い不安軽減に努めております。言葉で上手く伝えられない方もいらっしゃいますので行動や態度からも不安要素を探し支援しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との信頼関係を築く為に、電話や面会等で、ご家族様の意見や不安を聞き、言葉にできない事もあると思うので要望書を毎月送付し意見を記入して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様のニーズを聞きとり（表情や態度からも感じ取り）優先順位を見極め、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員一人一人が「共生、共存」に努めております。利用者様と一緒に過ごす時間を大切に、家族のような関係を築くよう心掛けております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	四季折々の行事や誕生会など、ご家族様の時間が許す限りの範囲の中で参加して頂き、ご家族様と共に支援しております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様、ご家族様からの情報をもとに、出来る範囲で支援しております。	親しい親戚や知人の訪問を利用者と共に歓迎しています。親戚の入院先にお見舞いに出かけることもあります。また、お寺の住職に来て頂くなど、利用者が、これまで大切にしてきたことへの関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが介入し、利用者様同士が楽しんでレクリエーションを行える環境作りを実施しております。笑顔が多い生活を支援するよう努めております。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設行事の案内等を出し参加を促し、継続し関係を保っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望を日々の生活の中で聞いたり感じたりして支援しております。言葉が困難な利用者様は表情等から感じ取り支援しております。	職員は、利用者の生活歴や職歴など、情報を十分把握しながら、共に寄り添う姿勢で利用者の思いや意向の把握に努めています。把握が困難な場合は、家族からの情報や日常の表情から察知して支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人様やご家族様、友人等に情報を頂き、ファイルにつづり、職員間で把握しサービスに役立てております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化があれば記録をして全職員が把握するように努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様からの要望を聞き取り（感じ取り）、職員間で話し合いをし、ニーズに沿った、介護計画を作成しております。	ホーム独自のケアプランが作られ、利用者の身体能力の維持、また、笑顔の暮らしの継続支援が行われています。日常のADL（日常生活の動作）の把握から始まる、暮らし全般にわたる項目のモニタリングが、職員間で行われて、短期目標への実践と見直しに反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一定期間だけではなく、状況に応じ作成を行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の要望が叶えられるように、突然の事でも叶えられるように柔軟に多機能に渡り対応出来るように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様、市役所の方々、地域の方々等、運営推進委員になって頂き、ご本人様らしい生活が出来るように社会資源を活用しながら支援しております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様等とかかりつけ医との関係及び事業所との関係を密にし、小さな事でも相談し、医師・看護師との連携を図っております。	従来のかかりつけ医への受診など、家族と相談しながら支援が行われています。協力頂いている医師も親切かつ細部にわたる対応で、家族の信頼も得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との情報交換、情報の共有化を常に行っております。受診時等には受診時報告を記録して頂き、全職員が把握するようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人様、御家族様の意向、病院の意向を確認し、病院との情報交換を密に行い、早期退院に努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、御家族様、医師、看護師、職員との連携を密にし、信頼関係を再構築した上で、説明と同意を繰り返し、最大限支援しております。	重度化や終末期に向けた対応指針は作られており、家族への説明が詳細に行われています。医師、家族を始めとする関係者間での連携を密にしながら、最良の方法に配慮しながら、ホームでの支援が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス時に緊急時対応の確認をし、必要であれば勉強会を実施しております。また、普通救命講習を定期的に通講しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々の協力体制を強化しております。また、防災センターにて災害時の対応知識を身につける等、災害対策を積極的に実施しております。	地域の方々の協力を得て、災害時の支援体制を図る一方、非常時への備蓄、職員が市防災センターに向いての災害時対応研修を行っています。また、ホームでは内部の造作に不燃材料を取り入れ、火災等に対処しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活や生活歴、認知症の種類等を把握し、その人にあった支援を実施しております。	職員は、利用者のプライバシーに関わる支援は、出来るだけ居室において行うなど、配慮をしています。また、トイレへの誘導も耳元でさりげなく行い、人格を損なわない支援が継続されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様らしい生活が出来るように、声掛けの工夫で選択して頂けるように支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者様のライフスタイルを尊重し、日常生活における全ての事を個々に合わせ対応しております。食事・入浴等の時間は決まっておりません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着る服やパジャマ等は利用者様に選択して頂き、女性は行事時、お化粧を施す等支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けはもちろんの事、盛り付け、彩りの工夫をしております。職員と利用者様が一緒に調理や準備、後かたづけをする事により食欲に繋げております。	食事は、朝食のみ業者の献立と食材に依頼していますが、昼食と夕食は、職員が利用者の希望を取り入れながら、献立作りをして、利用者と一緒に調理、配膳手伝い、そして楽しい食事風景を見ることが出来ます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に目標水分量を設定しております。また、その時々体調により、看護師と連携しながら柔軟に栄養状況や水分量を変更し対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎予防の為に清潔保持の為に毎食後口腔ケアを実施しております。また、入れ歯を使用している利用者様には定期的に消毒するよう対応しています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個々の排泄能力、排泄習慣を把握しトイレ、ポータブル等を使い分けを支援しております。オムツ利用者にも羞恥心に配慮して対応しております。	利用者によっては、トイレで、また、ポータブル使用など、一人ひとりの能力に応じた排泄の支援が行われています。管理者及び職員は、プライバシーに配慮しながら、可能な限りトイレでの自力排泄への支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と連携し、便秘予防を実施しております。飲食物や適度な運動等を行い利用者様それぞれに合った方法で、便秘予防に努めております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間設定がありません。ご本人様が入りたい時に入らせて頂いております。ゆっくりとリラックスした環境作りを行っております。	利用者の入浴希望を、ほぼ100パーセント可能に配慮がされています。毎日でも、夜間でも職員の余裕あるシフトが可能にしています。入浴中は、ゆったりとした時間を過ごして頂き、職員との会話も楽しみにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人のライフスタイルに合わせて対応させていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師と連携しながら、カンファレンス、申し送り、その他状況に応じて報告し合い、注意しながら対応しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割支援や外出、外食等の支援をしております。利用者様が施設内に閉じこもる事が無いように気分転換等の支援をしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の意向を尊重し、積極的に外出の機会を設けております。個々に外出の機会を設けたり、施設行事として遠出をして楽しみを増やしております。	体調に配慮しながら、利用者の希望する外出を支援しています。ホーム周辺の散歩や夏季のイベント参加、少し遠出のドライブ、また、冬季間でも滑り台で子供たちとの交流など、外気浴を兼ねた外出支援が、職員の熱意により盛んに行われています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様と相談し、利用者様の能力に応じておこずかいを所持して頂き、個々に買い物支援を実施しております。また、施設横に自販機を設置し購入して頂いております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の意向や職員の促しで支援しております。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の時の写真や、利用者様の作品を展示しております。また、音や光加減、温度等には細心の注意を払い対応しております。	ゆったりとしたソファが並びリビングと食卓とが区分され、生活にメリハリをつけるなどの工夫が見られます。廊下に仮設された歩行バーは、歩行訓練に大きな力を発揮するなど、利用者本位の配慮が伺えます。特に玄関の掲示板では、その日の勤務職員が記載され、また、インフォメーション欄には、利用者の愛されているペット(猫など)の情報もあり、家庭的な雰囲気に満ちています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内外にベンチや椅子を置き、利用者様が自由に過ごして頂けるよう支援しております。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご家族様にお話しし、以前から使用している使い慣れた物を持って来て頂いております。「なじみの物」を使用する事により安心して生活して頂けるよう支援しております。	利用者や家族が話し合い、これまで使われた馴染みの家具などが持ち込まれ、賑やかな雰囲気の居室となっています。家族の写真、自分で描いた絵画など、また、仏壇なども置かれ、利用者にとって安心した暮らしが継続される居室となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや長い廊下での歩行訓練、歩行バーでの立ち上がり訓練等ができるように残存機能の活用と自立に向けた支援を積極的に実施しております。			